

特集

特集に込めた願い 「いのちをそだてる一障害のある親の子育て」

一般社団法人 Smile Again / 東京頸髄損傷者連絡会

楢田 美知子

まちを歩いていると最近車椅子ママ・車椅子パパの姿を時々見かけるようになりました。また SNS（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）などで障害のある方の結婚やベビー誕生の報告も目に留まります。エレベーターでは優先エレベーターに乗ると車椅子ユーザーとベビーカーがよく一緒になります。無邪気に車椅子の私をみつめるベビー、思わず視線が近いので笑顔になってしまいます。そんな無邪気に生まれてきた子ども達のすこやかな成長には家庭や地域・社会のあり方も大きく影響します。

ところで子どもを持つ親が突然重度障害者になったらどうでしょう？どのように子育てを続けていけるのでしょうか？続けているのでしょうか？なかなか相談しても障害者の子育て情報がないという話を現在もよく聞きます。

私自身 24 年前、突然重度障害者になった看護師です。3 人の子どもがそれぞれ 1 歳、4 歳、7 歳の時に階段転落事故による脊髄損傷で車椅子生活となりました。シングルマザーでもありました。自分の障害だけでなく母親としてどのように暮らしを立て直せるのか、保育園・学校・子どもの送迎や買い物などの移動、地域の行事への参加、子どもの突発的な病気や怪我などへの対応、経済面等問題は山積。子育てを諦めかけた時もありました。しかし同じ車椅子の人からの体験談や暮らすコツを教えてもらったり、いろいろなサポートを得ながら、昨年 3 人とも無事社会人となり感無量でした。福祉用具一つとっても、車椅子は特に日々子育てのために地域社会に出かけていく「私の足であり、子育ての相棒」でした。雪の日の授業参観で、子ども達がみんなで車椅子を拭いてくれたシーンは忘れられない思い出であり、子ども達の笑顔が支えてくれたといっても過言ではありません。

この特集では、障害のある親のそれぞれの子育て、社会や環境に対しての思いやその結果、現在の生活に影響を及ぼしたり、実践活動に影響していることなどを語っていただきました。個別性もあり地域性もあり背景も違います。今回、過去・現在・未来と続く子育ての中で障害者が普通に生きること。社会参加することも困難が多い時代を暮らした当事者の子育て。子育ての真最中に突然障害を持ち家族の生活を再構築し当事者の体験を社会に発信している方。そして障害のある親に育てられたお子さんの立場でご執筆いただきました。

誰もが存在を認められ、安心して暮らしていくためには、ご執筆頂いた皆様の心がさらに広がっていくことを願ってやみません。そして「誰にもやさしいまちづくり」と言われる今日です。「(孤育) 孤独に子育て」というキーワードもありますが、それを解決するヒントが障害のある親の子育てにもあるかもしれません。合理的配慮や社会のユニバーサルデザインの視点も含め、重度障害者の親も想定した社会全体の「こどもを育てる」を考える機会にしていただければ幸いです。「どのこどもにも笑顔を」

一般社団法人 Smile Again

〒231-0002 神奈川県横浜市中区海岸通 5-25-2